

# 令和元年度第1回総合戦略推進会議 議事要旨

1. 日 時 令和元年5月17日（金）18時30分～20時15分

2. 場 所 市役所10階 第6会議室

3. 出席者 計26名 有識者 11名（欠席4名）  
関係部長 15名

## 4. 議事内容報告

### 1 開会

- 委員改選後の初開催となるため、事務局より各委員を紹介

### 2 会議の進め方について

（説明要旨）

- 今年度予定する新たな総合戦略の策定に向け、今後具体的な施策を検討するためのご意見をいただきたい。
- 人口対策について、「人口減少をできるだけ抑える」「人口減少社会に適応する」「人口減少をチャンスに変える」の3つの検討の視点に沿って、前回会議の発言内容も参考にしながら、意見交換を行う。

### 3 情報提供

#### （1）まち・ひと・しごと創生

（説明要旨）

- わが国は、2008年をピークに人口減少社会に突入し、2060年には現在の人口の3分の2になると推計されており、社会的・経済的に様々な影響が懸念されているところ。
- 国は、長期ビジョンを策定し、2060年に1億人程度の人口維持を掲げるほか、総合戦略を策定し、人口減少問題の克服と地方創生に取り組んでいる。
- 帯広市においても、人口ビジョンを策定し、社会動態・自然動態の改善を見込んだ2060年までの将来展望人口を示したほか、総合戦略を策定し、4つの基本目標に沿って人口対策を進めているところ。

#### （2）帯広市の人口動向

（説明要旨）

- H30末の総人口は166,889人となり、総合戦略を策定したH27以降、約1.0%減少している。
- 自然動態（出生数と死亡数の差）は、死亡数の増加、出生数の減少から、H27とH30を比較すると自然減が約2倍に拡大している。

- 社会動態は、H27～H28は転入超過であったが、H29に転出超過へ転じ、H30のマイナスはさらに拡大している状況。
- 道内主要都市比較では、帯広市の減少率は増加した札幌市・千歳市を除き道内最小となったほか、道内振興局比較でも、十勝の減少率は増加した石狩を除き道内最小となっている。
- 十勝・帯広市ともに、他地域と比較し、人口は堅調に推移するも、社会動態・自然動態の推移をみると、今後人口減少は避けられない状況にあり、人口減少を極力食い止めることは勿論、人口減少の影響を最小限に抑えたまちづくりが必要。

### (3) 総合戦略の取り組み状況

#### (説明要旨)

- 基本目標1「新たな『しごと』を創り出す」における主な成果としては、と畜場の整備やHACCPの普及支援等による輸出に挑戦する機運の醸成、とちち・イノベーション・プログラムによる事業構想づくりからの事業化の進展、神奈川の起業家支援財団と統合したとちち財団の事業者支援機能の強化などが挙げられる。
- 基本目標2「十勝・帯広への『ひと』の流れをつくる」における主な成果としては、スノーピーク社との連携によるアウトドアDMOの設立とポロシリキャンプ場利用者数の増加、サイクルツーリズムなど新たな観光コンテンツの開発、各種取り組みを通じた観光入込み客数の増加などが挙げられる。
- 基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」における主な成果としては、育児休業制度の導入事業所が増加するなど企業の子育てに対する理解促進、特定不妊治療費助成や子育て相談事業の充実など子育て世帯の経済的・精神的負担の軽減などが挙げられる。
- 基本目標4「安全安心で快適なまちをつくる」における主な成果としては、町内会等が主体となった防災講座等の開催による地域の防災意識向上、地域包括ケアシステムの構築・運用による高齢者が暮らしやすい環境の整備、公共交通の拠点となるバスターミナルの整備やまちなかにおける大規模再開発事業の進展による中心市街地の活性化などが挙げられる。
- 第1期総合戦略を総括すると、基本目標1および2については、数値目標が順調に進捗し、取組の成果も着実に生まれていることから順調に進捗と評価している一方、基本目標3および4については、子育て支援や人口減少・少子高齢社会に対応したまちづくりが進んでいるものの、数値目標の進捗が不十分であることから、さらなる進捗が必要と評価。

#### (質疑応答)

- 特になし。

## 4 協議題

### (1) 次期総合戦略の検討について

#### (説明要旨)

- 総合戦略の策定に係る推進会議のスケジュールとしては、本日の協議を踏まえ、6月下旬頃に基本目標1～2骨子案の協議、7月下旬頃に基本目標3～4骨子案の協議、10月頃に原案の協議、1月頃に最終案の協議の計5回を予定。2月成案を見込む。
- 次期総合戦略策定に向けては、①人口減少をできるだけ抑える、②人口減少社会に適応する、③人口減少をチャンスに変える、の3点を重要な視点と捉えているところ。
- これまでの議論でも様々な意見をいただいております、事務局にて3つの視点毎にグループ分けを行っている。本日の意見交換で3つの視点についてさらに深掘りし、今後の検討の参考にしたいと考えている。

### (2) 意見交換

#### (発言要旨) ※1巡目

- 転勤族だが、帯広に異動して良かったという人は多いと感じる。食や自然、天候など様々な点に魅力がある。こうした域外の十勝・帯広ファンやそのネットワークの力を上手く活用できないかと考えている。
- 元気な高齢者が多く、活躍できる場はもっとあると考えている。
- 2020年より学校教育でプログラミングの授業が始まる。群馬では地元紙と地元IT企業が連携し、プログラミングアワードを開催している。PCを通して地域間のやりとりも可能となる中、今後はIT企業をどれだけ呼び込めるか、IT拠点をいかにしてつくることができるかが重要。徳島県神山町にはこうした拠点があり、東京を行き来する関係者が増えていると聞いている。IT分野で市のバックアップがあれば。
- とかち・イノベーション・プログラムでは、産業振興だけでなく、挑戦者の集団が十勝への人の流れも生み出しており、基本目標を超えた取り組みともいえる。今回の戦略策定にあたり、具体的に動いている取り組みを今後どうするか、また、一つの基本目標のカテゴリーに収まらないものをどう位置付けるかについても、議論が必要ではないか。
- 人口が減っていない地域を分析すると、所得水準が高い、産業が強いなどの特徴がある。十勝・帯広はこの点優位な地域。子どもを産みやすいということも勿論大切。帯広市は何を重要視していくか。働き方改革や女性の活躍、幼児無償化など、国や道の動きも把握し、帯広市の施策と見比べることも必要。
- 平成30年の出生数減少の原因分析が必要。
- 10連休は保育所が休みとなり、家業(農家)に携わることができなかった。女性活躍には子どもの面倒をみってくれる場所を確保することが重要。子どもの医療費無償化も他町村の待遇に劣っている。働く場所がなく、収入に困った方は生活支援の手厚い自治体に転出するのではないか。
  - 10連休中は、すずらん保育所を開園し、多い日で100名超の児童を受け入れた日もあった。情報が行き届いていなかったと思われる。子どもの医療費の助成は、未就学児は全額、小学生は非課税世帯で実施している。支給対象を広げるには財源が課題となる。(帯広市)

- 地域で子どもを見守ることは大切だが、保護者の意識啓発に苦慮しているところ。学校が地域防災の拠点として機能することが、つながるきっかけになればと思う。
- 前回良い意見が多くでている。それぞれ実施するとなると、主体は国・道・市いずれになるのか。この点も含め、意見毎に問題点・課題の整理をしてみてもどうか。

#### (発言に対する意見交換)

- 特になし。

#### (発言要旨) ※2巡目

- 若年女性の転出を食い止めることが重要。要因についてどう分析しているか。  
→ 大学や短大、専門学校などへの進学で札幌市を中心に人口流出が続いている状況。希望する仕事が地元が少ないということがUターンにつながっていないものと認識している。(帯広市)
- 民間企業において女性が働きやすい職場づくりなど様々な取り組みが進められている。とかち・イノベーション・プログラムのように、新たに仕事をつくることも重要であるが、既存企業の取り組みを連携させ、「帯広で働こう」というメッセージを打ち出して、若年女性の流出を阻止することも大切と認識している。
- 浦幌町の地元密着した学校教育は生徒数が少ないからこそ可能。将来のUターンへの投資にもなる。人口減少をチャンスに変えた事例かと思う。
- 3つの視点があるが、帯広の着地点や将来像をどう考えているかわからない。十勝としてどうあるべきかが重要。その中で中核を担う帯広市がどのような役割を果たすのかが見えない。帯広市と周辺町村との連携は重要。まずは、帯広市としてしっかりとコアな部分を持つこと。そして、町村とも意識共有を図ること。  
→ 人口減少は受け入れなければならないと認識している。出生率は2.07で人口維持となるが、現状は1.43。統計上は徐々に下がっていくことになる。減少することに目を背けられないため、減ることを想定してまちづくりを考えないといけない。勿論下げ幅を抑えることには取り組んでいく。(帯広市)
- 十勝・帯広の人口を増やすという視点が最も重要だと思っている。民間では、地域商社をつくる動きが進み、稼げる地にしようと、地域の垣根を超えて一丸でやっている。最終的には定住人口を増やすことが必要であり、そのためには、訪れてもらって、体験してもらうことが一番効果的。
- 北海道にあこがれ、埼玉から進学を機に移住し、農家に嫁いだ。若い人の大都市圏への流出は今後もあると思うが、私のように逆のパターンもある。働く場所や大学などがあれば、こうした動きを促進することにつながる。
- ふるさと教育に取り組まないと十勝の良さがわからない。子どもは案外地域のことを知らない。地域の力、特に高齢者の力を借りて教育に取り組む必要がある。地域と学校の連携が重要。
- 女性が安心して子育てや仕事ができる環境をつくるために、高齢者の地域貢献が必要だと認識している。一方で、高齢者は働きたいと思ってもどうやって働いたらいいのかわからない。地域で高齢者が働けるようになればよい。年寄りといっても様々。高齢者も行政と一緒に努力する時代になっている。

### (発言に対する意見交換)

- 帯広市は「人口を増やす」というスタンスではない、という理解でよいか。  
→ 人口を増やす時代ではなく、減少幅を抑える視点が必要と認識している。(帯広市)
- 人口減少を最低限に留めるのは理解できる。その際、周辺自治体の人口減少を見て議論すべきではないか。帯広市だけ着目することに危惧している。人口を増やすのか、維持するのか、判断して発信すべき。  
→ 19市町村で定住自立圏に取り組み、十勝圏域で人口を維持するため、共同でビジョンの策定も行っているところ。人口については、圏域単位と市町村単位の両方に目を向けている。(帯広市)
- 十勝において帯広市は、交通や宿泊の要衝でもあり、極論を言えば、人口を増やすという気概で取り組むことも必要。出生数が突然増えることもないため、その際は域外から獲得する視点が重要となる。
- 十勝は「食」で強みがありすぎるという印象。突出したものを打ち出さないと印象に残らない。これだけ広範囲に手をつけるとどこを目指しているかわからない。
- 上川では、東川町の人口が堅調に推移し、旭川市は減少している。東川町は子育て政策が上手くいっていると感じる。幼少期から十勝の何が素晴らしいのかを教育すべき。特に将来の進路を本格的に検討し始める中学生くらいは重要。
- 10連休中に全ての市町村を廻ったところ、十勝が注目される理由が分かった。一方で、それぞれの良さはあるが、線が18本ある印象。この会議の議論の中心が帯広市か十勝圏域かは重要な論点になると思う。
- 人口減少を抑えている地域に共通した特徴には首長の強いリーダーシップがあると感じる。帯広市は本気度を示さないといけない。人口は頑張っていると思うが、より突っ込んだ議論が必要。
- 民間の目から見て十勝は一つ。行政にはその意識が足りないように感じる。広域連携は上手くいっているが、もっと帯広市のリーダーシップが必要。帯広市が気を遣って遠慮しているようにも受け取れる。他町村に積極的に入り、横槍を入れるような計画を示すなど、壁を取り払う努力を。
- ミクロ的な視点では扶助費は競争になるが、マクロ的な視点では地域間で切磋琢磨することにより地域力が上がってプラスに働くと思う。上手くいっている地域が上士幌。十勝管内の人口の奪い合いはナンセンス。三大都市圏を中心にPRし、外から呼び込む取り組みを打ち出していくべき。北海道でよい人生を送れるとアピールすることが大切。

### 5. その他

- 事務局より、本日の意見をもとに、次回以降の会議の場で骨子案を示す旨を連絡。

以上